

既得権を守れ！不当弾圧を許すな

日刊 動労千葉

82.4.2

No. 102

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市曙町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（会費）四三二・七二〇七

4.23 第七回 支部代 動労千葉臨戦体制突入を決定

動労千葉は4月23日、オセロ支部代表者会議を開催し、82春闘の中間総括を行うとともに、現在6名への任意出頭攻撃としてかけられてきている「デツチあげ」一切の勝利、国鉄労働運動の戦術的再生の力があることを確認し、既得権制奪・組織破壊攻撃の最前線としてある6名への任意出頭攻撃を粉碎するために決起しよう。

(一) 82春闘中間総括

82春闘は、政府・自民党・日経連による低賃金政策におしこめられた21年ぶりの交通ストなし春闘として終了した。

「行革」オセロ臨調攻撃に屈服した総評・公労協指導部は、公労委に全面依頼し、民間賃金準拠確認をもって賃上げ額提示がないままストライキを中止した。

軍事大国化改憲、「行革」右翼労働戦「攻撃」に戦略的視点をもたず、「内需拡大」等の改良的要素闘争にとどめた総評の屈服指導こそ敗北の決定的要因であり、このぶざまな姿勢をみこした仲裁決定の議決案件でのゆさぶり、国鉄・林野への条件付決定は必至である。

一方、動労本部「革マル」は、「82春闘情勢は、国鉄・動労が先陣を切つて即決に決起しても、労働運動の高揚など期待できず、逆につぶされてしまう結果となる」などと、「ストなし」に協力し、国鉄労働運動全体を「アシスト」労働運動へ引きこむ火女としてたちあがっている。

こうした既成指導部の屈服さらには、今日国鉄労働者につけられている既得権制奪・組織破壊攻撃に対し、職場労働者の怒りは頂点に達しようとしている。

問題はいかなる路線のもとに闘うかである。

(二) 不当弾圧粉碎 闘争について

千葉県警・佐倉署、船橋西署は、「本部」小川建二に対する2年もの前不法監禁をとうえて「監禁強要」「須賀君、錦織君、川嶋君（以上、成田支部）、宮内君（佐倉支部）、吉野君（勝浦支部）、滝口君（葛張支部）への任意出頭攻撃をかけた。

この攻撃の意味は、国鉄労働運動と三里塚闘争解体攻撃の教化のなかで、「国鉄」「三里塚」の接点をなす動労千葉を破壊せんとするものである。

さらに、これは、七月「オセロ臨調」をみすえた、5・6月既得権制奪・組織破壊攻撃に対する現場段階での激突を先取りした予防弾圧攻撃であり、「本部」革マルが新たな労働運動弾圧形態をひき出す先女としての役割を買って出たことを示している。

従って動労千葉は不当弾圧粉碎、「本部」既得権制奪・組織強化を目標に臨戦体制を確立し、次の通りとりくむ。

- ① 反弾圧・当該4支部総決起を中心とした全支部緊急総決起体制。
- ② 県労連・地区労各支部への支援要請。
- ③ 反弾圧キャンペーンの全国的展開。
- ④ 「本部」土屋一弘に対するオルグ活動

動の強化として、4月24日から実施。

(三) オセロ生攻撃「既得権はく奪・組織破壊攻撃との闘いについて

政府・自民党、オセロ臨調、国鉄当局の国鉄労働運動解体攻撃は、「ヤミ・カラ・タルミ・悪徳行」「国鉄」キャンペーンの段階から、職場生産点での直接的攻防の段階に突入した。

春闘中と直後の異例の本社人事異動・スト中止と同時に出された東京三局の「現協確認事項」の一方的破壊拒否すれば「業務命令」。そして、千葉局においても「職場規律の厳正化」「職場慣行・既得権制奪攻撃を開始した。

動労千葉の取り組みの基本は、
① 既得権制奪・組織破壊攻撃に対する反撃の闘いを反弾圧闘争と結合し、職場闘争として打ちぬく。
② 当局による「服装の厳正攻撃」に対し、乗務員分科会「マナー」を基礎に反撃の闘いをつみ上げていく。

③ 以上の闘いの勝利のためにも、5・23

既得権を守れ！
不当弾圧を許すな！
動労千葉

4月22日、「動労千葉指針33号」をもって、1,300名は全員新ワッパンを胸につけ、闘いに突入。

反核東
京行動
への参加
は重要
であり、
全力結集
で闘う。
ことを確
認した。